

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ジュニアサポートリンク		
○保護者評価実施期間	2026年2月10日		～ 2026年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2026年2月20日		～ 2026年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月18日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こども園の敷地内で運営しているため、園庭なども利用することができる。そのため、利用定員に対して広いスペースが確保されている。 また、庭に大きなトランポリンも設置。園庭とトランポリンで運動能力向上に繋がっている。	園庭はこども園の園児が使用していない時間帯での使用。広く走り回れるスペースがあることで他の事業所との差別化を確立している。その分、職員も規定より多く配置している。気持ちを落ち着けるためにトランポリンに向かうお子さんも多い。	トランポリン選手権などを開催し、他児を意識したり応援することで、横のつながりも期待したい。 園庭では植物や虫などへも興味を持ってもらい、そこから季節を感じ取れるような療育へと繋げていく。
2	幅広い年齢のお子さんをお預かりしているので、年齢やスキルによりグルーピング、成人期に向けてのSSTの実施。 その様子を毎月発行の通信に掲載し、活動について詳しくお知らせしている。	思春期に特化したプログラム、食育や、実験など。また「あおぞら文庫」として本の貸し出しも行っている。 毎月「まーる」を発行しお知らせ。お子さんの様子や、行事予定などをお伝えしている。	各プログラムの担当の工夫により、多方面に興味を持てるようにしていきたい。
3	各ご家庭との関係性がとても良い。また、対等な関係を築けている。	送迎時の保護者への申し送りや連絡帳等で、お子さんの様子を詳しくお伝えするとともに、気軽に相談いただけるような関係性を築けている。	保護者と事業所のつながりだけでなく、保護者同士の繋がりを求めている方もいる。ほとんどの場合は、同じ学校同士でのつながりや、親子行事の際に交流しているが、それが叶わない方もいらっしゃるなのでその橋渡しができるとう良い。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	PDCAサイクルについて、評価と改善が不十分な部分がある。	定例会にて計画案等を周知。その後、評価と改善については担当者からの報告のみで、すべての職員からの意見を集めることまでは至っていない。	次に繋がるという意識をより高く持ち、評価と改善案についても広く意見を求める。
2	マニュアルの策定や訓練等は行っているが、各ご家庭への周知が十分でない部分がある。	運営規程と共に玄関に設置し、常時閲覧可能な状態となっているが、事業所送迎のお子さんがほとんどなので保護者の方に関心していただく機会が少ない。	訓練を行った際など必要に応じて細かに情報を発信し、保護者の方へも関心をもっていただくきっかけを作る。
3	勤務体制について。人員は十分に確保し、専門性が高い職員も多く在籍しているが、常勤よりも非常勤の職員が多く、専門性を発揮できない場合がある。	言語聴覚士や心理士が在籍しているが、常勤ではないため加算をとることができない。また、直接支援の時間帯のみでの勤務のため、専門的な分野としての支援や記録が難しく、児童指導員の域での支援に留まっている。	非常勤とはいえ、専門性の高い職員が在籍していることは強みでもある。内部研修をすることで各職員が自分の専門外の分野について学ぶ機会を作る。また、事例検討の際にも専門的な分野からの意見をもらう。